

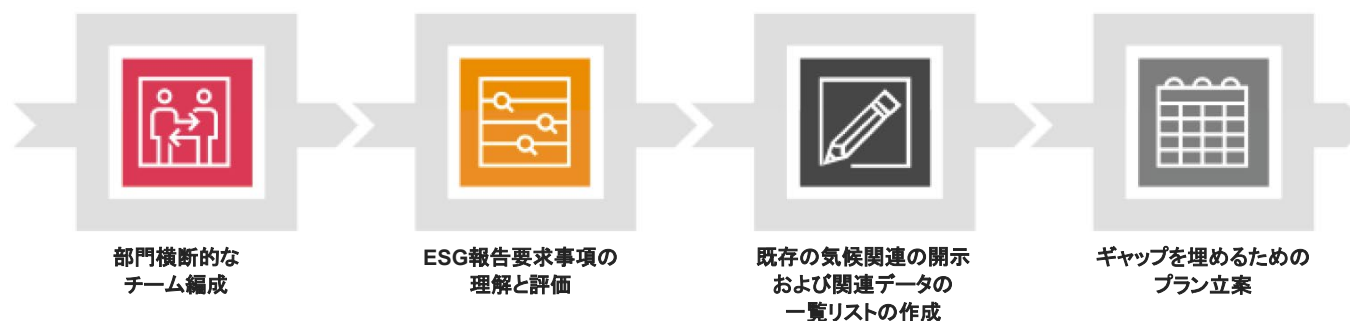
# ESG報告： 明日のESG開示規則のために今日準備すること

投資家の要望が引き金となり、また、場合によっては、気候変動との闘いに対する取り組みを動機づけるために、世界中の規制当局や基準設定主体が新たな開示要求事項を提案しています。ESG 報告の状況は、企業サステナビリティ報告指令 (CSRD) の一部として欧州連合 (EU) において、国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB) による国際的に、そして米国証券取引委員会 (SEC) による米国において、今年公表された「ビッグ 3」の提案が中心となっています。ほぼすべての公開企業は、これらの提案のうちの 1 つまたは複数の適用対象になると見込まれており、一部の企業は 3 つの提案のすべてに影響を受ける可能性があります。また、非公開企業も、期待が高まっている投資家に対するものか、バリューチェーンに含まれる企業に対するものかにかかわらず何らかの形での報告の必要があり、EU などの国や地域ではおそらく報告が義務付けられる可能性があります。ガイダンスの最終化が間近に迫っているなか、大きな問題は、「今、企業は何をすべきか」です。

規則案や基準案はまだ最終化されておらず、規則の制定や基準設定の過程で、提案されている要求事項が今後変更されることが予想されます。企業は、不確実性が確実になるまで待つというアプローチをとることも可能でしょう。しかし、予想される要求事項の適用範囲、および発効日が最終規則や基準の公表から 1 年内になる可能性を考えれば、その選択はあきらかに適切ではありません。本資料は、新たな気候関連の開示を作成するための「後悔しない」行動を提案します。このような行動を「ヘッドスタート (有利なスタート)」と考えてください。コンプライアンスを成功させるステップの多くは、今、行動を開始して規則や基準が最終化された時に慌てないようにすることです。

3 つの提案の範囲に含まれるトピックと特定の要求事項は異なります。SEC の現在の提案は、気候関連のリスクと機会により狭く焦点を当てている一方、CSRD の報告要求事項を形式化した EU サステナビリティ報告基準 (ESRS) の草案および ISSB 基準案は、より広い範囲のサステナビリティの問題を取り扱っています。本資料では、3 つの提案すべてに共通する気候に関するトピックに焦点を当てていますが、その考え方は幅広く適用することができます。

## 「後悔しない」ための行動



# 1

## 部門横断的なチーム編成

現在、多くの企業が ESG 情報を任意で報告していますが、一般的に現在のサステナビリティ報告書にはビッグ 3 の提案の範囲の広さや深さはありません。また、報告のスケジュールも課題になる可能性があります。なぜなら、新たな要求事項は、期末日から 6 か月以上後にサステナビリティ報告書を公表するのではなく、多くの場合において、現行の財務報告の要求事項に合わせてより適時の報告を要求する可能性があるからです。さらに、規制当局への報告により、新たな管理と統制の認証および関連する責任が発生するため、より正式なプロセスと統制、ならびに取締役会を含む組織全体の教育が必要となります。効果的なプロセスの構築には少なくとも、財務部門とサステナビリティ・チームの間での全体的な考え方や協力関係、そしてテクノロジー部門の積極的なリーダーシップが必要となります。

### 考えられる課題

- コンプライアンスには、部門横断的な取り組み（例えば、会計、ディスクロージャー委員会、外部報告、企業リスク管理、内部監査、IT、法務部門）が必要である
- 報告のスケジュールは短く、したがって困難になる可能性がある
- 気候リスクに対する責任を正式なものとするために、既存のガバナンス戦略および文書化を強化する必要がある可能性がある

### 行動

- 主要な利害関係者およびビジネスプロセスのオーナーを特定し、明確なオーナーシップと目標を持つ部門横断的なワーキンググループを立ち上げる
- プロジェクト計画とスケジュールを作成する
- 組織全体の現在の知識および理解を評価し、リソースのスキルアップ計画を策定する
- 必要に応じて、教育セッションを含むスキルアップ計画に取締役が関与する

# 2

## ESG 報告要求事項の理解と評価

ESG 報告要求事項の理解と評価には、(a) 適用可能性の評価、(b) 詳細な要求事項の理解、(c) 予想される報告スケジュールの決定という 3 つのプロセスがあります。この評価は、ビッグ 3 の提案に限定するべきではなく、むしろ企業が事業を行っているすべての国や地域における要求事項を含めるべきです。

### 適用可能性の評価

適切なチーム編成がなされたら、次のステップは、異なる枠組みの適用可能性を評価することです。米国のすべての公開企業および外国登録企業 (FPI) は、ファイリングの立場や状況によって異なる可能性のある特定の開示および保証の要求事項 (例えば、小規模 (定義される) 報告企業はスコープ 3 の温室効果ガス (GHG) 排出に関する情報を提供することは要求されません) を備えている SEC 規則の適用範囲に含まれることになります。EU 市場に上場しているすべての企業、および EU 域内に「大規模」な (定義される) 子会社または事業を有する EU 域外の企業は、ESRS 要求事項の対象となります。そして、企業は、どの国が ISSB 基準を採択するか、または他の現地のサステナビリティ開示を要求しているかをモニターする必要があります。例えば、ニュージーランド、スイス、英国を含む国々では、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) と足並みをそろえた何らかの形での強制開示を採択しています。

### 詳細な要求事項の理解

3 つの提案には、同じ開示要求事項が多く含まれていますが、いくつかの重要な点で異なります。適用される規則の詳細な要求事項の理解は、完全で効果的なプロジェクト計画を確保する上で極めて重要です。社内の多くの人にとっては規則や基準の一般的な理解で十分ですが、企業が複数の枠組みの下で報告を行う際の微妙な差異などを含め、プロジェクトチームは、提案に関する専門知識を身につけておく必要があります。例えば、SEC の提案は、企業が気候関連の目標やゴールを有している場合に、その開示を企業に要求するのに対し、EU における報告対象の企業は目標やゴールを実際に有しておくことが要求されます。要求事項を詳しく検討することは、最終的なプロジェクト計画の完全性と、最終的な報告の品質の双方に貢献することになります。さらに、開示要求事項はまだ開発中ですが、今のうちに規則を理解しておくことで、最終規則が公表された時に迅速な対応が可能となります。

## 報告スケジュールの決定

この段階で最後にやることは、予想される報告スケジュールの理解です。SEC 規則案には、大規模早期提出会社について早ければ2023年に遵守が要求される例示的なスケジュールが含まれていましたが、最終規則がまだ公表されていないことを考えると、PwCは、最も早い遵守は2024年に開始されると予想しています(ただし、最終規則が公表されるまではわかりません)。同様に、EU 規制市場に上場する証券を保有しており、従業員500人超の EU 域内の「大規模」(定義される)会社は、2024年(2025年に提出)から報告を開始することが要求されます。ISSB 基準の発効日は、それを採択する各法域によって決定されます。

2024年はまだ先だと思いかもかもしれませんが、わずか1年余りしかありません。綿密な計画の策定により、企業は、確実に遵守が要求されるときに備えることができます。

## 3 既存の気候関連の開示および関連データの一覧リストの作成

規制当局への提出書類、サステナビリティ報告書、その他の公開および内部報告書における企業の既存の気候関連開示は、任意報告を拡大し、提案によって要求される開示拡充の基礎になります。しかし、信頼性の高い再現可能な気候データソースの特定は、多くの場合において、既存情報の分類における主な課題のひとつです。潜在的な課題には、データ元に関する疑問、複数または異なる情報源から集められたデータの不整合、そして大量の見積りを裏付けるためのデータの十分性が挙げられます。情報ソースから最終報告書へのデータのマッピングに関連する目的適合性のある統制を識別する強固なプロセスの文書化を行うためには、これらの課題を解決しなければなりません。

既存の開示の一覧リストは、データの質の評価に加え、関連するプロセスや統制が投資家に提供するのにふさわしい報告書であることを裏付けるのに十分に強固かどうかの評価に焦点をあてるべきです。このフェーズにおいて、企業は、将来のデータのガバナンスの状態も考慮する必要があります。受入可能なデータソースの要件、チェックと検証可能な範囲およびプロセスと統制に対する期待など、強制開示の準備過程の早い段階で、高い品質のデータの基礎を成す柱を確立することにより、企業は、最終化された要求事項が発表された時に迅速に準備することができるようになります。さらに、報告済みのデータの質の強化は、追加のプロセスやコントロールを実施した結果として生じる将来の変更に役立ちます。

ゴールは、再現可能で、効率的かつ有効なプロセスにより、質の高い情報を提供する、財務報告のプロセスと同様の報告プロセスを確立することです。



**データソースの一覧リストは、次の重要な質問に答えるのに役立ちます。**

- どのようなデータが必要か。
- そのデータは、報告でどのように利用されるのか。
- データはどこに保持されるか。
- データは信頼できるか。追加のコントロールや関連するプロセスが必要か。
- データは長期的にどこに保存されるのか。

## 4 ギャップを埋めるためのプラン立案

どの基準が適用されると見込まれるかの判断、報告の要求事項の適用範囲の検討、現在の開示のデータの質の評価を行った後、企業は、データ、プロセスおよびコントロールに焦点を当てた現在と将来の状況との報告上のギャップを特定する必要があります。場合によっては、このギャップの決定には、提案の不明確な文言または要求事項をいかに解釈するかについて暫定的な決定が必要となる可能性があります。また、最終規則や最終基準によってある程度の追加の明確さが示される可能性はありますが、現時点で要求事項を解釈することにより、企業は、最終規則や最終基準の公表時にはすでに基本的な理解を得ていることになります。

提案を解釈する際の課題の一部、およびその課題に対処するための行動について、下表にまとめます。

考えられる課題	行動	
<b>気候リスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「気候関連」のリスクおよび機会の内容が明確でない可能性がある</li> <li>開示可能な目標と、それほど具体的でない低炭素経済への移行の意思との違いが明確ではない可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候と移行リスク関連の活動に関するグループ共通の定義の設定</li> <li>気候関連リスクの特定に利用される既存のリスク管理プロセスの十分性を評価する</li> <li>シナリオ分析および関連プロセスをレビューする</li> <li>短期、中期、長期にわたる影響に具体的に対処するため、気候関連リスクの重要性の判定を強化する</li> </ul>
<b>GHG 排出</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GHG に関する既存の企業の報告の境界が、SEC の提案および EU の基準案の財務諸表における企業の報告の境界と同じではない可能性がある<sup>1</sup></li> <li>GHG 排出データが不完全である可能性がある</li> <li>規制当局への提出に間に合うよう GHG のデータを集計するのが困難である可能性がある</li> <li>GHG データ品質とコントロールが、規制当局への提出に十分でない可能性がある</li> <li>現行の GHG 報告プロセスでは、持分法適用会社またはバリューチェーン内の企業からのデータを把握できない可能性がある</li> <li>技術およびデータのガバナンスの大幅なアップデートが必要になる可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GHG 排出の情報を完全かつ正確に把握する企業の能力を理解するために関連する全てのプロセスおよびシステムを洗い出し、必要に応じて、インフラおよび技術をアップデートする <ul style="list-style-type: none"> <li>GHG 排出情報の入手可能性および時期について、持分法適用会社やバリューチェーン内の企業と議論を開始する</li> <li>入手可能なデータが存在しない場合、見積アプローチが必要となる可能性があるかどうかを(例えば、バリューチェーン内の企業と一緒に)検討し、報告の要求事項を満たすスケジュールに従い、入手可能なデータを収集するプロセスを構築する</li> </ul> </li> <li>新たな企業の報告の境界について既存の気候関連の指標、ゴールおよび目標を再設定するかを検討する(これにより、一貫性が高まる)</li> <li>スコープ3の排出に重要性があるかどうか(これは、SEC 提案の開示の範囲に影響する)、また、それらが GHG 排出量削減目標またはゴールに含まれているかどうかを決定する</li> </ul>
<b>財務諸表の影響 (SEC 提案の規則の場合)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の財務報告プロセスでは、(1)厳しい気象やその他の自然現象、(2)気候関連の移行活動の財務影響を識別するには不十分である可能性がある</li> <li>財務報告に係る業務プロセス、システム、コントロールは、財務報告に係る内部統制の整備および運用の有効性の指標を満たすには十分でない可能性がある</li> <li>技術およびデータのガバナンスの大幅なアップデートが必要になる可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>厳しい気象およびその他の自然現象または移行活動によって影響を受ける可能性が最も高い財務諸表の表示項目を特定する</li> <li>関連データを完全かつ正確に把握する企業の能力を理解するために関連するプロセスとシステムを洗い出し、必要に応じて、インフラおよび技術をアップデートする</li> <li>気候関連事象に伴うコストを追跡し維持するために、別の勘定科目またはコストセンターを設けることを検討する</li> <li>データが入手不能の場合、どのように見積アプローチを使用できるかを検討する</li> <li>財務報告に係る内部統制の整備および関連するプロセスの文書化をどのようにアップデートする必要があるかを検討する</li> </ul>

<sup>1</sup> ISSB の提案には、GHG プロトコルに整合する、経営支配法(財務や経営)または持分割合法のいずれかをを用いて企業の報告の境界の決定を選択することが盛り込まれています。しかし、可能な場合には、GHG 排出の報告は関連する財務諸表と整合させるべきであるというのが PwC の考えです。

## 次のステップ

ビッグ3の提案が最終化されると、それらは投資家やその他の利害関係者の意思決定を支援する新たな報告のエコシステム(生態系)の基礎となります。この新しいエコシステム(生態系)は、数十年前に始まり、現在も強化されつつあるもう一方の財務報告のエコシステム(生態系)と比較すると、ほんのわずかな時間で実現することが期待されています。期待が急速に変わっていることを考えると、最終規則が公表されるのを待っている企業は、コンプライアンスのスケジュールに間に合わせるために慌てたり、おそらくは開示の質を危機にさらしたり、企業のストーリーを最も良く伝える機会を逃す可能性があります。規則案のいくつかの部分はまだ進展していますが、全体的な期待や方向性は定まっています。明らかになっていない多くのことがある一方でやるべきことはたくさんあります。企業は、現時点での規則案を活用して、今、最終規則の準備をしておくことが賢明だと言えるでしょう。

## その他の資料



公表物



ポッドキャスト

<a href="#">The SEC wants me to disclose what? (日本語は<a href="#">こちら</a>)</a>	<a href="#">Audio: The SEC wants me to disclose what?</a>
<a href="#">Navigating the ESG landscape (日本語は<a href="#">こちら</a>)</a>	<a href="#">Audio: Navigating the ESG landscape</a>
<a href="#">What's CSRD? It's important to know (日本語は<a href="#">こちら</a>)</a>	<a href="#">Audio: What's CSRD? It's important to know</a>
<a href="#">ISSB proposes two sustainability standards (日本語は<a href="#">こちら</a>)</a>	<a href="#">Beyond the SEC, global bodies are moving fast on ESG</a>
<a href="#">ESG materiality: Gulf or gap?</a>	<a href="#">Talking ESG: The data quality imperative</a>

© 2022 PwC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC Network and/or one or more of its member firms, each of which is a separate legal entity. Please see [www.pwc.com/structure](http://www.pwc.com/structure) for further details.

This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors.



当該和訳は、英文を翻訳したものですので、和訳はあくまでも便宜的なものとして利用し、適宜、英文の原文を参照していただくようお願いします。